

通所支援事業

1. 令和5年度 活動報告

	活動	目的と内容	取り組みと課題	実施状況
子ども支援	1.療育相談 ・通所支援移行相談 ・修了児事後相談	・親子ニーズを把握し、スムーズな療育の開始に繋げる。 ・修了後の心配や不安が生じた場合の相談に応じ、親子の安定に繋げる。	①相談来所後、すぐに療育開始を希望するケースが増加しており、スムーズな移行支援ができています。	月～金 一人:2時間程
	2.児童発達支援 ・個別支援 ・グループ支援 ・実体験活動 ・指導後の話し合い、相談 ・事業所内相談 ◎アセスメント作成 (発達実態等把握) ◎個別支援計画作成(6か月毎) ◎モニタリング ◎ケース検討等 保育所等訪問支援 ※通所困難となったケースに対応	・子どもの発達ニーズに沿った個別、小集団支援を行い、子どもが持つ力を伸ばし、発達を促す支援を行う。 ・子どもの発達状況や保護者ニーズ、家庭状況、地域の支援状況等を踏まえた総合的なアセスメントを基に個別支援計画を作成し、支援を実施する。 ・発達支援については、子どもの力を最も効果的に引き出すことができる「遊び」「実体験活動」を通して行う。 ・保護者との協働療育を基本とし、信頼関係を築きながら家庭での接し方や将来的な発達の見通し等について共有することで、安定した子育てができるよう支援する。	②通所児数は、若干増加傾向であるが、完全個別担当制での療育を継続することができた。個々の親子と信頼関係を形成しながら支援するよう努めることができた。 ③子どもの発達ニーズに基づき、「個別支援」、「グループ支援」を随時組み合わせながら柔軟な療育内容にできるような努めることができた。 ④就学や就園、療育手帳の取得等における相談は、管理者を含めて丁寧に相談に対応できるよう努めることができた。 ⑤通所児の増加に伴い、個別支援計画作成やケース検討等の業務も増加している。	月火木金 1単位:1時間30分～ 2時間 (1日3単位)
	3.放課後等デイサービス ・個々の活動 (発達支援) ・グループ活動 (適応支援) ・指導後の話し合い、相談 ※個別支援計画、モニタリング等	・児童発達支援修了の児童(3年生まで)を対象に支援を継続し、安定的な学校・家庭生活が送れるよう。	⑥学校生活開始と同時に、学習や仲間関係等、不安が大きい保護者の相談を受け止め、必要に応じて学校と情報共有する等、支援できた。 ⑦子どもの主体性や、興味関心を取り入れた活動や遊びを実施する中で、子ども同士の社会性やコミュニケーション面の発達・成長を促すことができた。	水曜日 (1時間30分)
保護者支援 親の会支援	1.行事 ・親子お楽しみ会 ・夏祭り ・親子遠足 ・クリスマス会 ・修了式	・親子での楽しい集団参加、活動体験を通して、「親子関係の充実」「集団適応力や協調性の向上」「仲間づくり」に繋げることができる。	⑧コロナ後、保護者ニーズを踏まえて開催方法等を検討した。グループ開催等、親子が参加しやすいよう配慮したところ、参加人数が以前より増加している。	※年間行事予定に基いて開催
	2.親の会活動(支援) ・役員会、活動支援	・保護者同士の繋がりが仲間づくりを形成し、安定した子育てや将来的な地域生活に繋げることができるようにする。	⑨行事の計画等、親の会と共同しながら行うことができた。 ⑩役員活動を通して、保護者同士の繋がりが形成されている。	※福祉まつりバザー参加 (10月) ※役員会(随時) 行事準備
	3.保護者座談会 ※小人数での座談会(3～5人程度) ※テーマに沿った開催	・日頃の悩みや疑問について、気軽に話し合う場ができることで、保護者の気持ちの安定に繋げることができるようにする。	⑪就学や家庭生活の悩み等、様々なテーマを基に開催することができた。保護者同士の新たな繋がりができ、子育ての情報交換ができています。悩みを共有することで、ピアカウンセリングの場とすることができている。	※5回開催
	4.保護者学習会 ・就園・福祉サービス学習会 (子育て支援課、社会福祉課) ・就学学習会 (教育委員会、学校) ・発達についての学習会 (大湫病院・児童精神科医)	・ライフステージの節目にあたり、保護者が正しい情報を得ながら、適切な支援の選択ができるよう援助する。 ・保護者が、子どもの発達に関して理解を深め、より良い関わり方や支援方法等を知ることができるようにする。	⑫就学支援については、年々時期が早まっており、学習会の時期や内容については見直す必要がある。 ⑬今年度初めて、職員・保護者合同の発達に関する学習会を開催することができ、保護者に好評を得られた。	※就学学習会 (5月) ※就園学習会 (10月) ※発達学習会 (11月)
	5.つなぎ支援 ・保護者見学への付き添い 学校見学会 ※就学先学校 就園先、福祉サービス事業所	・子どもの発達状況や家庭環境、保護者のニーズに合わせた進路先やサービスの選択ができるようにする。	⑭これまで、年長保護者対象の就学先見学を中心に行ってきたが、年中保護者のニーズに応え、特別支援学校の見学を行うことができた。	学校見学会 (6～7月) その他、随時
地域支援・連携	1.園との連携 ・新入園児情報提供 ・園訪問 ・ケース検討会 ・その他情報共有	・子どもの発達状況や支援方法等について情報共有し、子どもが集団生活を安定して過ごすことができるよう支援する。	⑮園の特別支援コーディネーターと、連絡を取りながら、子どもの発達状況や保護者の思い等を共有し、より良い支援に繋げることができた。特に就学については、取り組みの進行状況を両者で把握しながら進めることができた。	市内園訪問 (6～7月) ※園・ケース研(各園)
	2.教育との連携 ・学校訪問 ※教育委員会と合同 (授業見学・情報交流) ・新1年生情報連絡会 (担当教員→センター訪問) ・ケース会議 ・その他情報共有	・幼児療育から、教育に情報を引き継ぎ、より良い学校生活を開始できるよう支援する。 ・通所児の学校生活について把握することで、発達課題の捉え直しや、新たな支援方法の考察に繋がられるようにする。	⑯学校訪問・情報交流会を通して児童の学校生活を把握することで、療育支援の振り返りと、次の支援の目標設定に繋げることができた。また、教育委員会、各学校の特別支援担当職員とは必要に応じて情報共有やケース会議を持つことができています。 ⑰学校と療育の連携があることは、保護者の安心感にも繋がっているようである。	市内学校訪問 (5月) 就学支援委員会参加 就学相談会参加 情報共有、ケース検討 (随時)
	3.福祉・医療・行政等との連携 ・情報共有(保健センター、医療機関等) ・施設(指導)見学等 各種会議参加 ・地域総合支援会議 ・東濃特別支援教育連携協議会	・各関係機関と連携し、情報共有することで、子どもや家庭に対してより良い支援ができるようにする。 ・地域の福祉・教育に関わる会議に参加し、地域課題の掘り起こしや解決に向けて取り組む。	⑱地域の通所支援事業所、主任児童委員等の見学来所があり、当センターの療育の様子を実際に見てもらうことで支援方針や内容等について理解してもらうことができた。 ⑲他事業所を併用利用するケースが増えつつある為、更に連携し、支援方法を共有できるようにしていきたい。	見学来所(随時) 地域総合支援協議会 (専門部会、全体会) 東濃特別支援教育協議会 (年1回)
研修 指導方法研究会(公開療育) 専門研修 各種研究会参加 資格取得・更新研修 相談支援専門員 児童発達支援管理責任者 施設運営研修 虐待防止等	・指導方法研究会を実施することで、職員間で指導方法の考察を深める機会を持つと共に、外部専門家の意見を取り入れ、指導技術の向上をはかる。 ・専門研修を受講することで、発達支援に関する専門的知識を習得し、職員の支援力を高める。 ・福祉サービス等に関する制度への知識を深め、安定的な施設運営を行う。	⑳指導方法研究会を2回開催し、外部講師を招いて支援方法についての検討を行うことができた。市内の園、他市療育施設の支援者の参加が得られた。 ㉑地域の研究会に参加し、他市施設とも交流しながら情報交換や指導方法の検討を行うことができた。 ㉒活動が固定化されないよう、幅広い研修を受けて新たな活動内容を取り入れていきたい。	◎指導方法研究会 (7月、11月) 発達協会研修(東京) 東濃地区指導方法研究会 岐阜県障害幼児研修会 相談支援専門員・児童発達支援管理責任者研修	

相談支援事業

1. 令和5年度 活動報告

	活動	目的と内容	取り組みと課題	実施状況
発達相談支援	電話相談 1.電話対応 ニーズの把握 ・電話相談(関わり方等をアドバイス) (関係機関等を紹介) ・相談予約(日程調整)	・親子のニーズを把握し、必要な支援に繋げる。	①保護者が不安なく相談ができるように、丁寧に聴き取りを行い、ニーズに合わせた支援に繋がれるように努めた。	月～金 開所時間中
	1.初回相談 ・アセスメント ・保護者のニーズ、思いの傾聴 ・発達の状況の確認	・子どもとの関わりを通して実態を把握し、発達状況を保護者と共有する。 ・保護者の不安な気持ちや、複雑な思い等を傾聴し、今後の見通しに繋げる。 ・関わり方等のアドバイスや情報提供を行う。	②相談時間をゆったりと設け、保護者の話を丁寧に聴き取ること心掛けた。 ③子どもとの関わり、行動観察等を通して、子ども理解に努めた。 ④保健センター、園、学校等の仲介から来所に繋がるケースは、事前に情報共有できる機会が増えており、より深い子ども理解に繋がっている。	月～金 予約制 1人:2時間程度
	2.継続相談 ・保護者のニーズ、思いの傾聴 ・子どものニーズに応じた遊び・活動 *相談継続 または 随時対応 *通所へ移行 *関係機関の紹介 *関係機関への繋ぎ (学校関係、園関係、病院 他事業所等)	・発達の変容の確認や生活環境等の把握をし、必要な支援を保護者と一緒考えていく。 ・保護者の思いに寄り添いながら、子育てに向かう気持ちを支える。 ・親子のニーズに合わせて相談支援の継続、または通所支援への移行を行う。 ・関係機関と情報共有を行い、親子のニーズや今後の支援の見通し等を共有する。	⑤延べ相談件数は昨年度と比べ、ほぼ横ばい。 ⑥継続相談の場合は、月に1回の相談を継続しているケースが多い。 ⑦子どもの発達や保護者のニーズに合わせて、定期的な相談を継続しながら、通所支援に繋げている。 ⑧通所支援との連携のもと、ニーズに合わせて迅速に通所開始に結び付けることができた。 ⑨子どもの発達や保護者の心理状態について、学校や園等の関係機関と情報共有し、支援方法について共有できるように努めた。 ⑩学齢児において、集団生活の中で支援に繋がっていない児を相談にて対応しているケースがある。学校と支援方法を模索しながら対応している。	月～金 予約制 1人:1時間～ 1時間半程度
	1.子育て支援センター訪問 (年2回) ・遊びの場を通しての相談 ・発達支援センターの紹介 ・情報交流	・親子の遊び場を通して、発達や子育てに関することを気軽に相談できる場にする。 ・発達支援センターを知ってもらう機会にする。	⑪訪問での相談から、来所相談につながるケースがある。 ⑫地域の中に発達支援センターがあることを知っていただく機会になった。 ⑬子育て支援センター職員との情報交流ができ、親子のニーズや家庭状況の把握ができた。	1回目:7～8月 2回目:2～3月
2.学校訪問・園訪問 対象:来所相談児、計画相談児 ・観察、支援方法等の把握 ・担当職員と情報交流 (相談児の様子、保護者の思い等) 対象:新規相談児 ・観察、支援方法等の把握 ・担当者との話し合い ・保護者支援に向けての話し合い ・療育の紹介	・利用計画に反映させる為、集団生活の様子を把握する。 ・生活状況の確認を行い、支援の方向性について確認する。 ・発達状況や保護者の思いを共有し、支援に繋げる。 ・集団生活の中での行動観察を行いながら、子どもの気持ちや行動を理解する。 ・発達状況を把握し、担当職員と共有する。 ・支援方法の検討を行い、必要に応じて療育支援の紹介を行う。	⑭計画通りの訪問の実施ができ、担当職員との情報の共有や、集団生活の様子・発達状況等の確認ができた。 ⑮発達状況や保護者の思い等を共有することで、相談や計画作成時に、より深く親子を理解できるように努めることができた。 ⑯訪問相談から、来所相談につながるケースがある。集団生活の様子を把握できたことで、来所相談時の子ども理解に繋がっている。	6～7月 通所支援と 日程調整	
計画相談支援	1.サービス等利用計画作成 *障害児計画相談 *指定特定相談 ・アセスメント ・親子のニーズ聴き取り ・事業所への聴き取り・連絡調整 ・担当者会議	・対象児の心身の健やかな発達を促す為に必要な相談支援を行う。 ・対象児や保護者の人格や意思を尊重した利用計画作成や相談を行う。 ・家族支援、生活支援、地域支援等、適切なサービスが総合的かつ効率的に受けられるように支援する。	⑰放デイ事業所の増加や、放デイ利用ニーズの高まりにより、利用児が年々増加している。それに伴い、計画作成件数も増えている。 ⑱年度末の計画作成の集中を軽減するため、昨年度より放デイ利用児に対して、誕生日月の計画書き替えを行っている。これらのことも、延べ作成件数増加の要因に繋がっている。	月～金 保護者と 面談日時調整
	2.モニタリング作成 (新規:3ヶ月、6ヶ月時) (継続:6ヶ月毎) ・親子のニーズ、利用状況の聴き取り ・事業所様子の聴き取り(参観) ・モニタリング会議 ・計画の見直し	・利用計画に基づき、計画が適切であるか確認を行う。 ・課題があれば、サービス内容の調整や関係機関との調整を行い、計画の見直しを行う。	⑲複数の事業所を併用利用している児童も増加傾向にあり、それに合わせて他事業所との連絡調整業務も増えている。 ⑳18歳を迎えた児童に対して、就労支援等、成人期の福祉サービスへの繋ぎ、相談事業所の変更が必要なケースが出てきている。相談支援事業所の引き継ぎも課題となっている。	月～金 保護者と 相談日時調整
*地域支援・連携・・・通所支援と共通 *研修・・・通所支援と共通				

令和5年度 通所支援事業・利用状況 (令和5年12月31日現在)

単位:人

※児発・・・児童発達支援、放デイ・・・放課後等デイサービス

【1】年齢別通所見数

<児童発達支援事業>

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
未就園児	0	1	4	1	0	0	6
就園児	0	2	8	17	20	13	60
合計	0	3	12	18	20	13	66

※R4年度通所見数 61人

<放課後等デイサービス>

	1年生	2年生	3年生	合計
	12	8	6	26

(在籍状況)
 支援学校：1人
 支援学級：13人
 通級利用：8人
 通常学級：4人

※R4年度通所見数 23人

【2】月別通所利用状況

※延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児発	115	163	163	147	173	180	191	162	217				1511
放デイ	32	47	47	47	37	44	38	41	20				353

※R4年12月末 延べ人数(児発1426人、放デイ273人)

【3】支援経路

支援経路	児発	放デイ
保健センター	32	10
幼稚園等	15	7
学校関係	0	0
医療機関	4	5
その他・自主的	15	4
合計	66	26

【4】支援開始年齢

支援開始年齢	児発	放デイ
0歳	1	0
1歳	13	3
2歳	25	8
3歳	12	3
4歳	9	4
5歳	6	8
合計	66	26

【5】医療機関・診断状況

年齢	児発・放デイ	
	受診	診断
0	0	0
1	2	1
2	4	4
3	9	6
4	8	5
5	5	5
1年	8	6
2年	7	1
3年	6	5
合計	49	33

【6】療育手帳取得見数

級	児発	放デイ
A1	0	0
A2	2	1
B1	5	0
B2	7	4
申請中	2	0
合計	16	5

※療育手帳取得率
 児童発達支援 :23%
 放課後等デイ :19%

【7】身障手帳取得見数

級	児発	放デイ
1級	1	0
2級	0	0
4級	1	0
6級	0	0
合計	2	0

【8】家族支援状況

	通所見	保護者	兄弟	その他	合計
学習会(就学)	0	13	2	0	15
親子お楽しみ会	22	24	6	0	52
夏祭り	37	50	22	9	118
学習会(就園)	6	7	3	0	16
親子遠足	44	78	28	0	150
クリスマス会	54	62	15	13	144
修了式					
合計	163	234	76	22	495

※その他・関係者、ボランティア等

【9】療育相談(通所移行相談・修了見事後相談)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	学齢	合計
実人数	0	3	11	3	4	6	0	27
延べ数	0	3	23	4	22	24	0	76

令和5年度 相談支援事業・利用状況 (令和5年12月31日 現在)

単位:人

【1】計画相談

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中学生	合計
発達支援センターのみ	0	3	14	16	14	13	9	7	1	0	0	0	0	77
他事業所のみ	0	0	1	0	0	1	6	7	6	9	5	9	12	56
センター・他事業所	0	0	0	1	6	0	2	1	4	0	0	0	0	14
合計	0	3	15	17	20	14	17	15	11	9	5	9	12	147

*計画相談利用見数推移 H25(78人)→H26(74人)→H27(91人)→H28(88人)→H29(89人)→H30(87人)
→R1(99人)→R2(113人)→R3(115人)→R4(131)→R5()

①月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画相談	62	13	6	4	20	10	16	16	8				155
モニタリング	10	8	25	9	9	40	13	14	8				136
合計	72	21	31	13	29	50	29	30	16	0	0	0	291

【2】来所相談

	年齢	実人数	延べ人数		年齢	実人数	延べ人数		年齢	実人数	延べ人数	電話相談(電話のみ)			
												実人数	延べ		
幼児	0歳	2	2	小学生	1年	6	22	中学生	1年	0	0	81			
	1歳	5	14		2年	4	14		2年	0	0				
	2歳	17	56		3年	4	11		3年	2	2				
	3歳	13	44		高校生	4年	0	0	1年	2	2				
	4歳	13	59			5年	1	1	2年	0	0				
	5歳	10	47			6年	3	28	3年	0	0				
	合計	60	222			合計	18	76	合計	4	4				
												実人数	82	延べ	302

①相談経路

*重複あり

	人数
保健センター	29
園	25
学校	2
医療機関	2
自主的・その他	26
合計	84

②相談開始年齢

年齢	人数	学年	人数	学年	人数
0歳	3	小1	2	中学生	2
1歳	16	小2	3	高校生	1
2歳	20	小3	2	合計	82
3歳	11	小4	0		
4歳	9	小5	2		
5歳	11	小6	0		

0~2歳 47%
3~5歳 38%
学齢 15%

【3】訪問①園訪問(幼児園・幼稚園・保育園・子育て支援センター) ②学校訪問

	年齢	実人数	延べ人数
幼児園 子ども園 保育園	0歳	0	0
	1歳	0	0
	2歳	7	7
	3歳	8	8
	4歳	10	10
	5歳	9	9
合計		34	34
子育て支援センター(0~3歳)		5	5
総合計		39	39

	学年	実人数	延べ人数
小学校 (支援学校含む)	1年	19	19
	2年	17	17
	3年	11	11
	4年	5	5
	5年	4	4
	6年	10	10
支援学校 中等部	1年	2	2
	2年	2	2
	3年	0	0
支援学校 高等部	1年	1	1
	2年	1	1
	3年	1	1
合計		73	73

*園訪問実人数 39人中

(既)相談来所児 27名
新規相談児 12名

【5】関係機関連携

園・学校	69
他事業所等	172